

木の家をじっくり

「家をつくるなら事業」
佐賀県木工業協同組合

佐賀市木原三丁目5番27号
TEL 0952-26-3311
FAX 0952-24-0580
e-mail sagamoku@h7.dion.ne.jp
<http://www.sagamoku.com/>

佐賀の木の家
お問い合わせ先

アムコ



さがんちくん

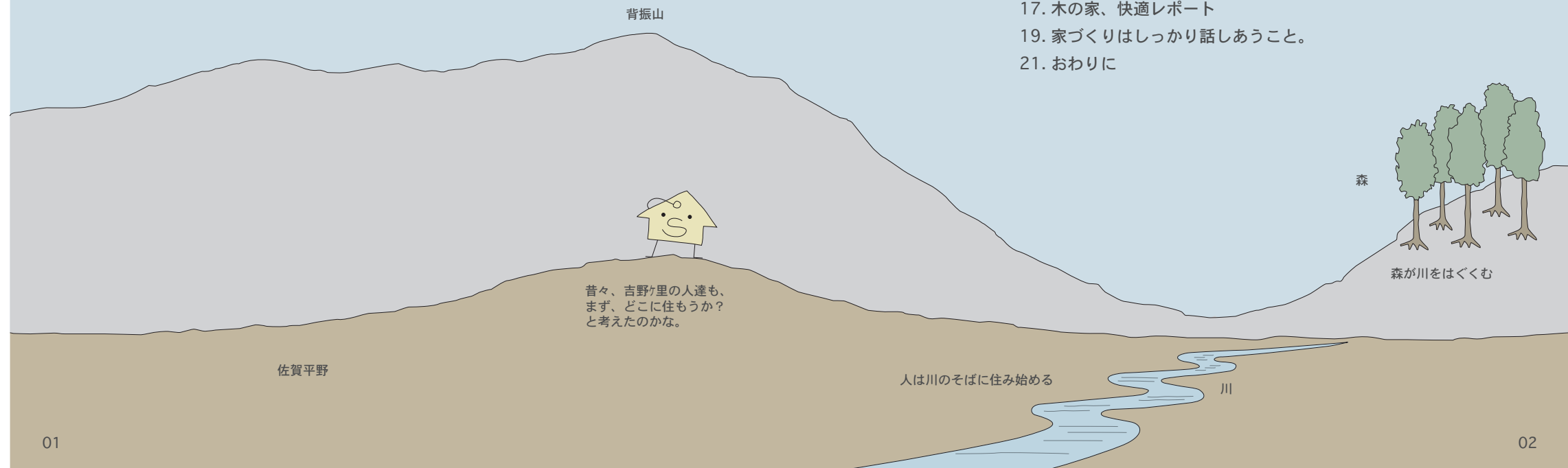


さがけん

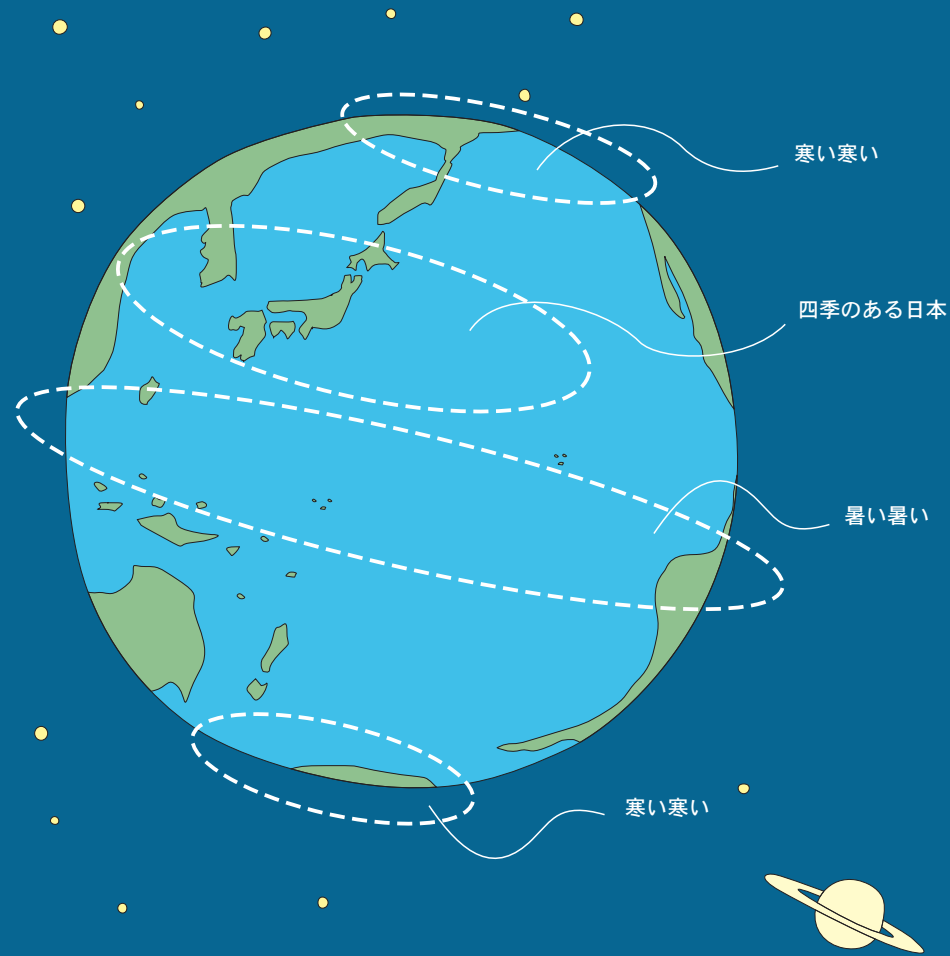
人がいて、暮らしが始まり、家が立つ。

もくじ

1. はじめに
2. もくじ
3. 地球上には、気候と風土に合った家がある。
4. 日本には、日本にあった家がある。
5. 限りある資源、再生する木
6. ウッディブリック
7. 家と健康
8. 家だって深呼吸がしたい
9. よっし！家をつくろう。
10. カンチガイしてはいけない住宅展示場
11. 家を簡単に考えると
12. 家をつくる人達
13. 楽しい家1・・・土間のある家
14. 楽しい家2・・・吹き抜けのある家
15. 楽しい家3・・・中庭のある家
16. ローコストって？
17. 木の家、快適レポート
19. 家づくりはしっかり話しあうこと。
21. おわりに



地球上には、気候と風土に合った家がある。



地球上にはいろいろな国があります。
又、それぞれの国にはそれぞれの家のスタイルがあります。
それは、気候と風土が家を作ってきたからです。

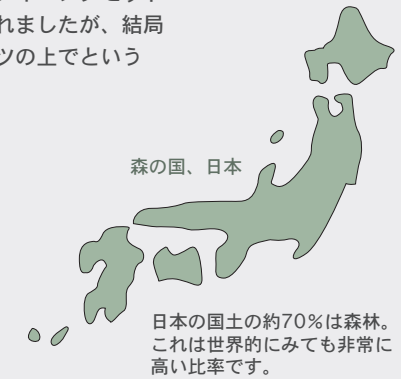
日本には日本に合った家がある。

昔の日本の住まいは、木や土、草、などで出来ていました。
その日本人の住まいというのは、単に自然の素材をそのまま使うだけでなく、巧みに素材を生かして、日本独自の文化にまで高めたものが沢山あります。
木や草から作られた和紙で、障子や襖といったパーティションを創り、草で編んだ畳という置敷のカーペット。茅葺きの屋根や瓦屋根。いずれも四季の寒暖や、梅雨時の気候を快適に住まう為に長年かかって考えられた、今でも十分新しさを感じる住まいの素材です。

住まい方にしても、決して広い空間では無かった日本の住宅でしたが、押し入れや折り畳みのちゃぶ台などの機能的な家具で、シンプルな中に床の間などの空間を楽しむ余裕さえありました。

しかし、戦後の欧米化の波。狭い公団のキッチンでもダイニングセットが導入され、当初はモダンな暮らしとしてもはやされましたが、結局はキッチンの物置き台となり、食事は畳の部屋のコタツの上でという暮らしはいまでもよくみられる光景です。

そして、近代化と共に、地球上、住まいも均一化してきましたが、同時に資源や、健康など、今新たな問題もクローズアップされてきました。
昔に比べ、確かに便利になったような生活だけど、便利なモノは、又、新たな不便さを生み出し、増え続けるモノ達。失なった文化も多くあります。



日本の気候

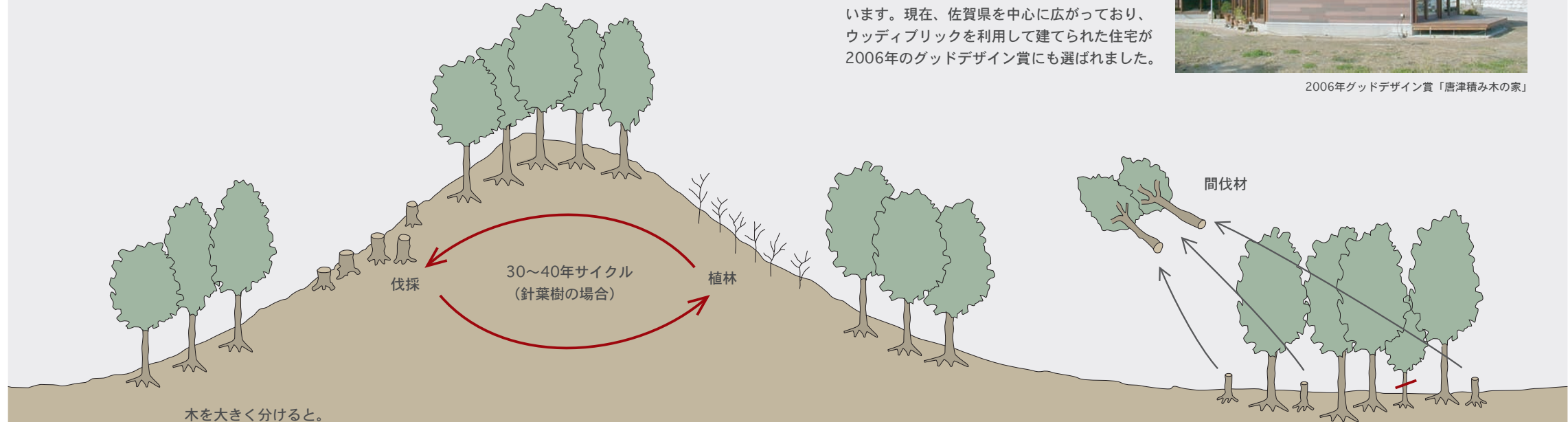
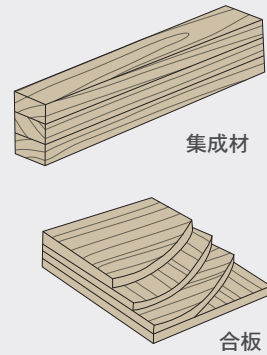


限りある資源、再生する木。

今の時代、限りある資源や環境の問題を抜きにしては語れません。リ・デュース（より少なく）、リ・ユース（繰り返し使う）、リ・サイクル（素材の再生）という言葉は、トレンドではなく今や切迫した地球上の大きな課題なのです。有限の埋蔵資源である石油からの脱却を図る点においても、昔から家作りに使われてきた木材は、まさに新時代の素材でもあります。

木を加工して使う。

一口に木といっても、そのままムク材として使うほか、木は、長尺のものや巾広にする為、又、狂いをなくしたり強度を増す為に、さらに木材を有効に使う為に、いろいろな加工をして使われています。但し、その過程で使われた接着剤などに含まれるホルマリンが、シックハウスの大きな原因の一つにもなっていました。現在はJAS規格やJIS規格で、合板やMDFなどのホルムアルデヒド放散量が表示区分されていますので、住宅内部などに使う場合、出所がはっきりした、品質の保証されたモノを使うことが大事です。



針葉樹／ 杉や檜など、一般に家の本体や、建具などに使われています。成長が早いので、戦後の植林政策で日本中の山々に植えられ、いつの間にか、里山の景色を作るようになりました。

広葉樹／ ナラやブナ等の落葉樹、クスやカンなどの常緑樹。堅く重い木ですが、細い材でも強度がありますので、家具などに多く使われます。成長が遅いので、伐採には長期的計画が必要です。

有効な木材資源を育てるためには、間伐（いわば、間引きです）という作業が必要です。



十分に乾燥させた間伐材を安全な接着材で集成したウディブリック。



ボルトに通して積み上げていきます。レゴブロックの要領ですね。



国の防火認定も得ている厚さ10cmのムク材の丈夫な壁材。外装と内装が一度にできます。

佐賀発

ウディブリック

佐賀県で開発された杉の間伐材を利用した構造用木材のウディブリックは、新しい建築資材です。乾燥させ集成加工した小径木の間伐材を積み上げていくログハウス工法は、自然素材の有効利用というだけでなく、間伐による森林の保全、セルフビルドでも出来る住宅建設作業の簡略化など、いろいろな利点と可能性をもっています。現在、佐賀県を中心に広がっており、ウディブリックを利用して建てられた住宅が2006年のグッドデザイン賞にも選ばれました。



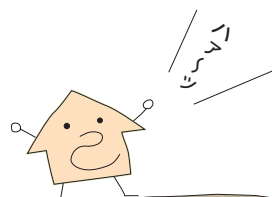
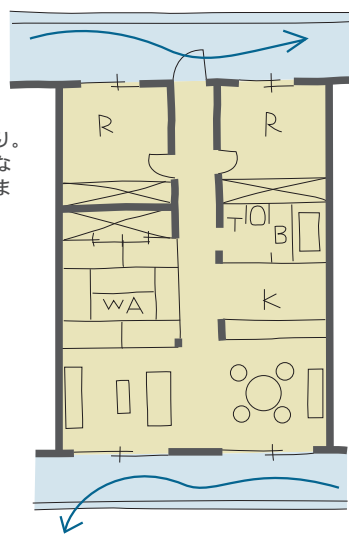
2006年グッドデザイン賞「唐津積み木の家」

家と健康。

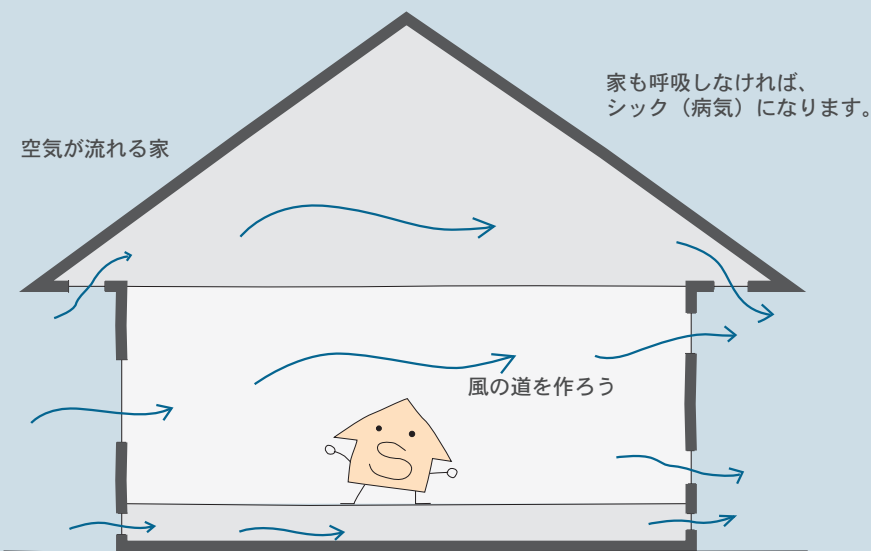
現在の住宅で大きな問題に、アレルギーやシックハウス症候群があります。アレルギーの原因にはカビや花粉などがありますが、目に見えないチリダニの死骸なども原因となっています。又、シックハウスの原因としてインテリア素材の合板、クロスなどに使われる接着剤から発生するホルムアルデヒド等の化学物質が問題となっています。家の中には、他にも多くの有害物質はあるのですが、このホルムアルデヒドは残留期間（約10年といわれています）が長いので、もっとも影響を与えやすいのです。

元来日本の住まいというのは、冬の寒さに合わせるというより、高温多湿の夏を過ごし易くする為に風通しよく作る事が大事でした。ところが、戦後、アルミサッシの建具の登場で、住まいの気密性も良くなり、又、エアコンの普及などで、密室でも温度調節ができるようになりました。高气密性によって住まいの居住性は良くなったのですが、反面、窓を開けて換気をするということがなくなり、アレルギーやシックハウスなどの問題がクローズアップされてきたのです。

典型的なマンションの間取り。これでは、玄関ドアを開けなければ、風の通る道がありませんね。

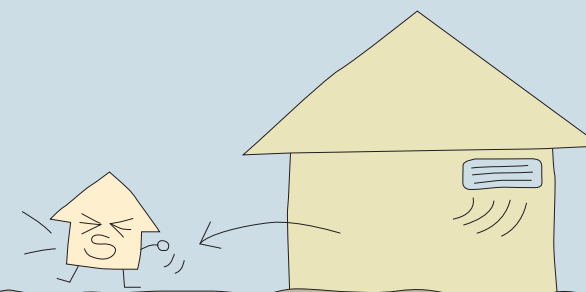


家だって深呼吸がしたい。



腐朽・湿気による、カビ、菌（イエダニの好物）などの発生
蟻害・シロアリは湿気を好みます

住まいも人も、換気と風通しが一番大事なことです。密閉された居住空間の中で、身体が温度調節する必要もない生活習慣などが、喘息などの現代病を増やしています。



よし、家を作ろう。

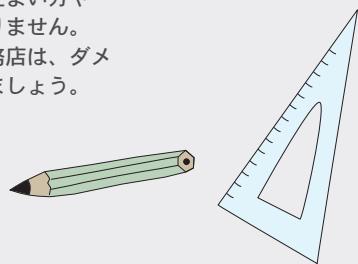
家は買うものではなく、つくるもの。

家って何？まず、外観、間取り、広さありき、じゃありません。自分がその家でどのような暮らしをしたいか、ということが大事なのです。家を建てるということは「一城の主」とか、「一生の仕事」とか、なにか家を持つことが目的のように思われる風潮もありました。戦後日本の復興では一番の政策は住宅ではなく、産業の育成であり、それに伴い所得倍増政策で、モノが買える、ということが尊ばれました。電化製品の普及で便利になった暮らし、失った文化も多く、元来空間を生かす住まい方の達人であった日本人の狭い住空間にはモノがあふれました。今でも書店の住宅雑誌は、あふれるモノをしまう為の収納特集だらけです。

ようやく気が付き始めた、世間体ではない、自分達が気持ちよい暮らしをする為の家。いま、あちこちで、暮らしを楽しむ家づくりが始まっています。

誰が家を設計する？

一緒に考えてくれる、建築士、工務店などを探そう。建築家って？実は建築家という職業はありません、建築設計の資格をもつのが建築設計士です。カッコイイ外観を創るのが、設計士ではなく、いっしょに家作りを考えてくれるパートナーが一般に建築家と言われる設計士なのです。家についての考えや要望を、実際にカタチにするのが設計という作業です。設計にはもちろんお金がかかりますが、コストを抑えるアイデアや、時には、住まいに対する漠然とした考えを、思いもよらなかった住まい方やカタチとして提案してくれるプロの設計士を使わない手はありません。よくある、家を建てるなら設計料はタダですというような工務店は、ダメです。自分や家族の為に真剣に時間をさいて設計してもらいましょう。いい設計士との出会いは、結果的には得するものです。

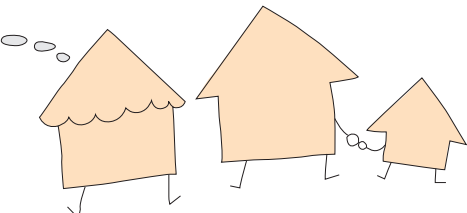
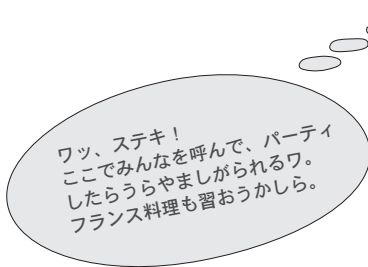
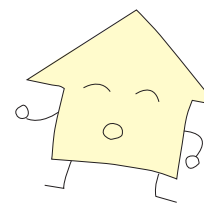


カンチガイしてはいけない、住宅展示場。

住宅メーカーの展示場に行ってみると、まるでTVドラマのようなセット。コーディネーターというプロがあの手この手で購買意欲をかき立てようときれいに飾り付けをしているのですから、ついつい、そのシーンにウットリしてしまいがちです。ですが、冷静に、よく考えて見ましょう。ほんとうにそんなシーンで生活しますか？生活を作るのは家ではなく、自分の暮らし振りなんですね。



家のセールスマン



- ・自慢したい人のところには誰もこない。
- ・料理はキッチンという設備がするものではない。
- ・きれいに出来るか否かは家のつくりではなくその人の性格です。

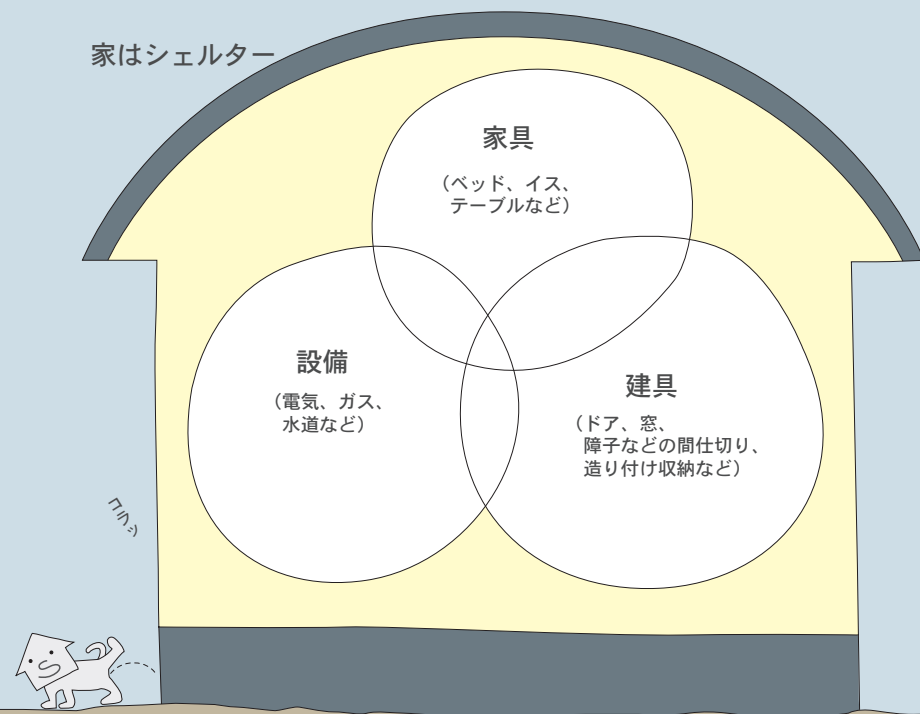
家を簡単に考えると。

家の構成を考えてみましょう。
 余りに大きくて多くの要素から成り立っている
 ようですが、だからといってあまり複雑に考
 えることはありません。
 基本は雨風を防ぐシェルターとしての家の本体。
 それに暮しを営む為の基本設備（水、火、電気）。
 そして、実際に生活する為の家具や建具などの
 道具などです。



このロゴは、佐賀県のある工務店さんのコンセプト
 マークなのですが、家の構成をうまく表して
 と思います。

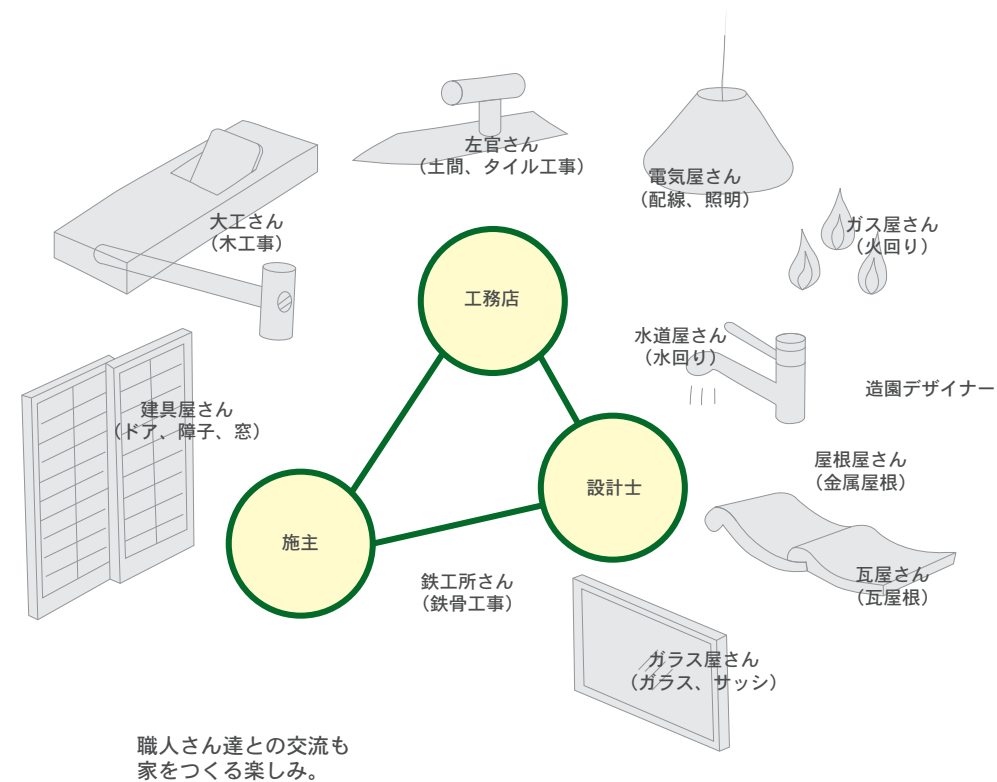
家はシェルター



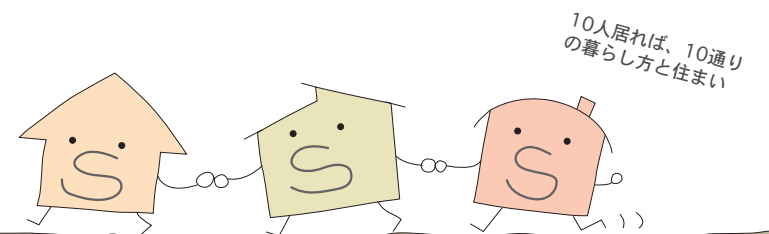
家をつくる人達

工務店はさしずめコンダクター（指揮者）
 施主とのいいコミュニケーションがいい家をつくる。

いい工務店さんは、いい職人さん
 達のチームを持ってるものです。

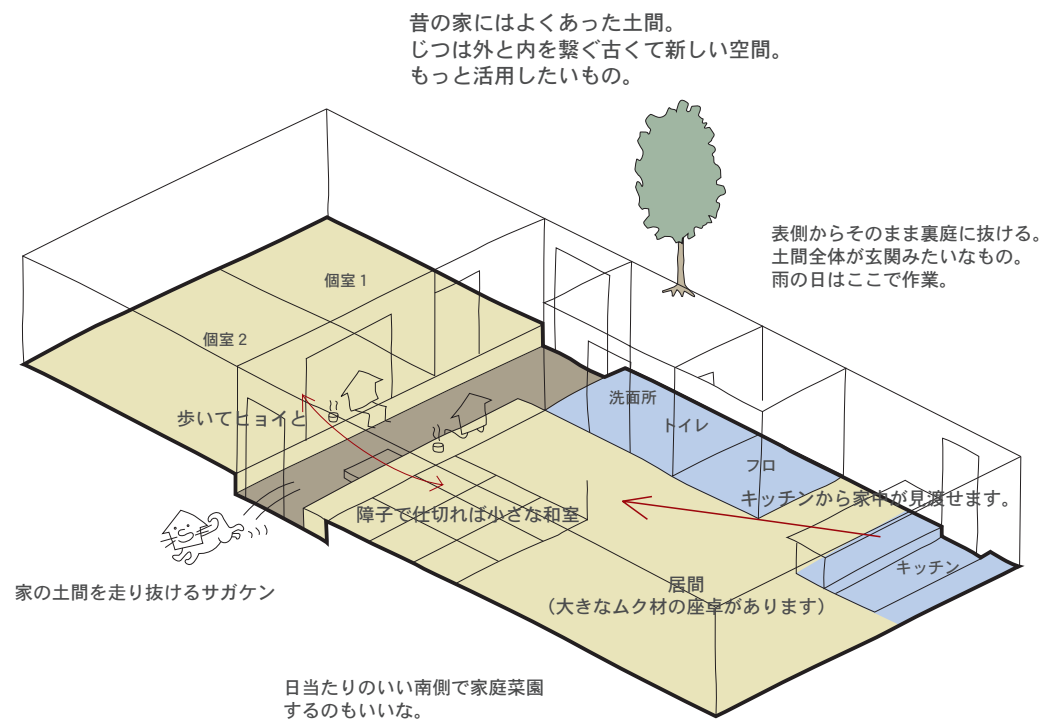


職人さん達との交流も
 家をつくる楽しみ。

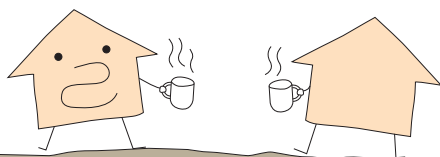


暮らしを楽しむ家を観てみよう。

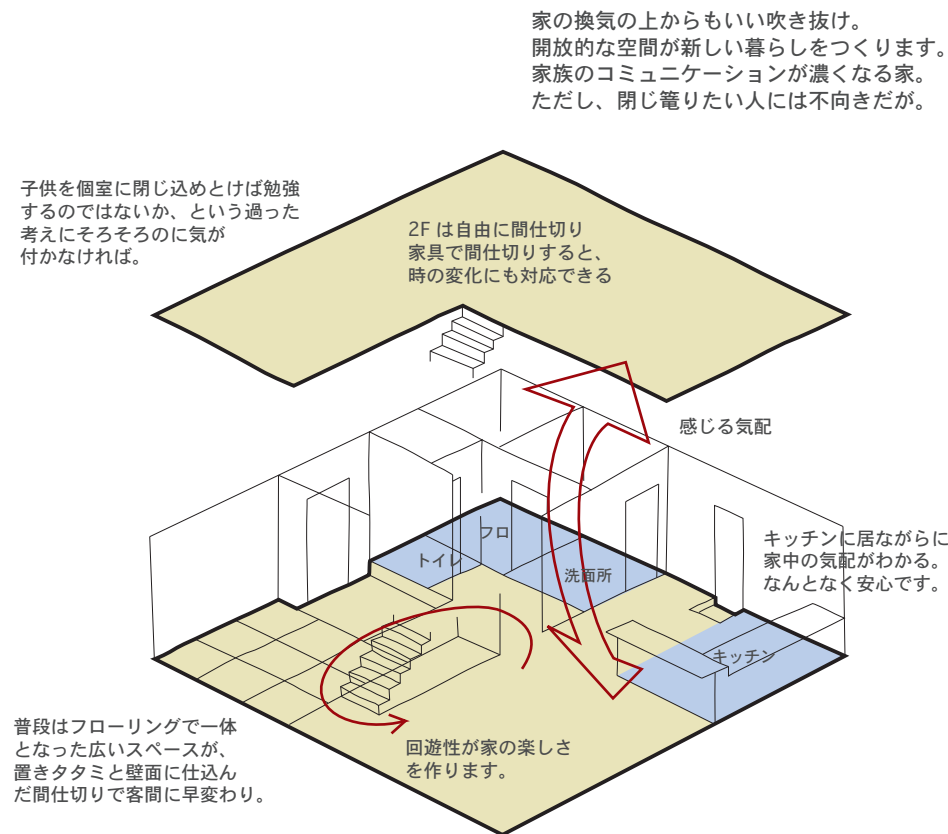
その1。 土間のある家



近所の人達もついつい土間でおしゃべりしたくなります。

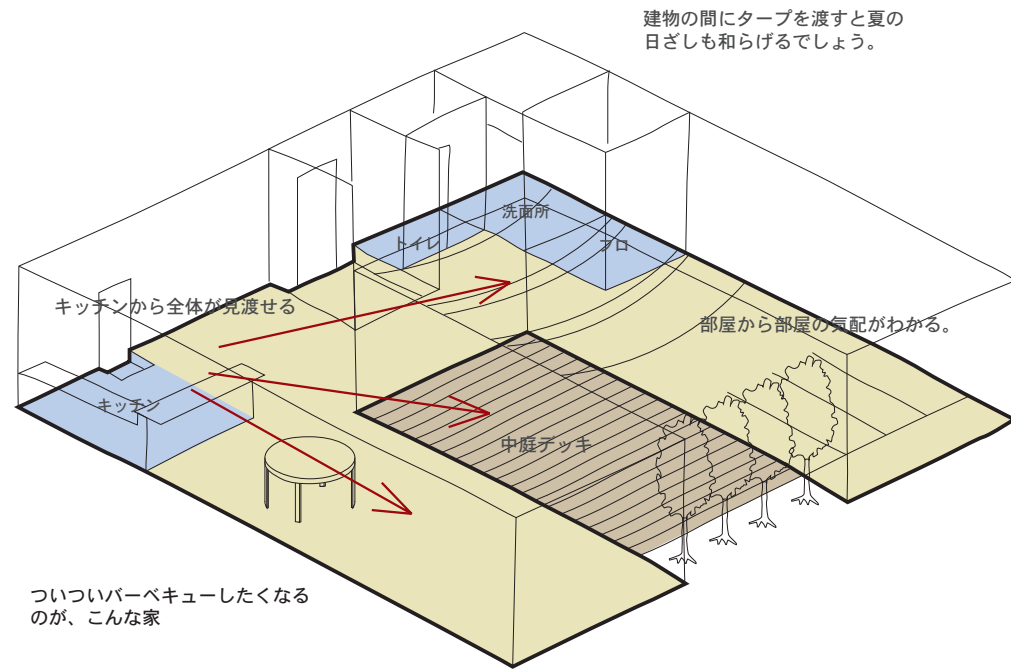


その2。 吹き抜けのある家



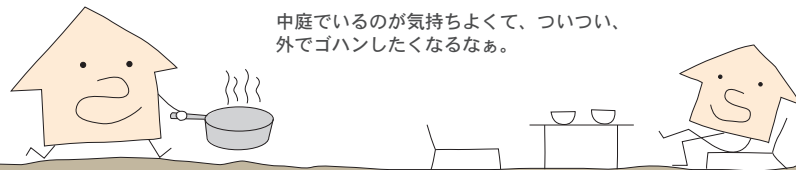
その3。 中庭のある家

建物に囲まれた中庭（コート）は外と内を繋ぐ、不思議な空間。まわりの環境にも左右されないこの空間では、新しい暮らし方がいろいろ発見できます。



建物の間にタープを渡すと夏の日ざしも和らげるでしょう。

つついバーベキューしたくなるのが、こんな家



中庭でいるのが気持ちよくて、つつい、外でゴハンしたくなるなあ。

ローコストって？

誰だって、家は安価に出来たほうがいい。
只し、家は何十年も住む器。長もちのするよいモノが欲しいものです。
だから、何が大事か、自分の中で優先順位を決めること。
何でも盛り込もうとするから、一つ一つがチープ（安手）になります。
土台と設備はしっかりしたものに。過剰品質は必要ない。
あとから出来るものは、あとからでもいいでしょう。
ただし、これだけは欲しい、ということは実現しましょう。
家は竣工した時が完成と思わず、この日から徐々に自分の住まいを創りあげていくんだという気持ち。
それが、結果的にはローコスト、高品質のハウスにつながります。
家は買うものではなく、作るもの。
そうすれば、家作りってほんと楽しいものなのです。



何十年も住むんだし、内部はゆっくり暮らしながら、考えて完成させよう。

とりあえず、好きなオフロだけは立派にしたいな。

家具はとりあえず持ってるもので

木の家、快適レポート。

いずれも、ここ数年で佐賀近郊で自分達の思い通りの木の家を建てられて住まわられてるご家族です。みなさん木の家の快適さを満喫されておられます。



外壁はウディブリックを黒色に染めました。



内部の建具で、広さはフレキシブルに変化。

武雄市お住まいの Ym 様の場合



家を建てる前にハウスメーカーの展示場へ見学に行きましたが、展示されてる空間がなんだかおもしろみを感じて自分の実生活をうまく想像することができませんでした。そんな時に話しを聞いてくれそうな工務店のことをホームページで知りました。木造と聞くと、すぐにログハウスのような野暮ったいものをイメージしてしまうのですが、そうではなくてこんなカッコいい形もあるんだというのが第一印象です。我が家の家づくりのポイントは子供に安全な住まいであること、そして家族みんなの顔が見える空間であること。

シャープな外観ですが、内部はすべて木の家なんです。



佐賀市にお住まいの Is 様の場合



我が家自慢の土間。正面玄関から入って靴を履いたまま裏庭まで抜けることが出来ます。住みはじめて木の温かさを実感しています。少し肌寒いなと思いながら帰宅しても家に入ると短パン一枚で過ごしています。パインの床は、日中入る日差しで家を夜まで温めてくれます。家にいる時はもちろん素足です。



シンク回りも無垢の木です

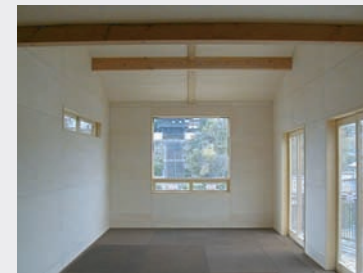
2つの建物に囲まれて広いウッドデッキがあり、そこが家の中心です。



佐賀市にお住まいの Kw 様の場合



家の中心で紅葉なんて贅沢ですね。



眺望の良さも生かしてもらいました。

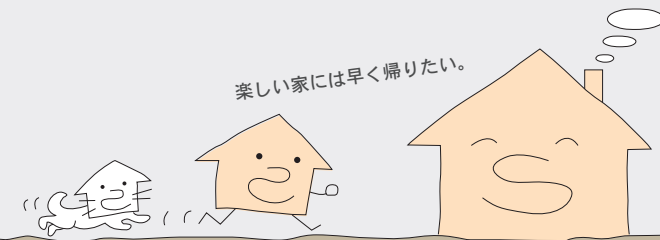


大きな木製建具は全開します。

大手ハウスメーカーの住宅に魅力を感じていなかったし、自分が住みたいと思うような家を設計事務所にデザインしてもらいたかったから。必然的に地元工務店に施工してもらいました。又、設計事務所に頼むと設計料を別に払う必要があり高くつく一般的な言われませんが、私はそうは思いません。もちろん、設計事務所に頼めば設計料自体は高くなると思います。でも、設計の自由度の高さやセンスの良さ、選択できる建築資材の幅広さ、バランスの取れた予算配分等々、全体予算が同じであれば、確実に自分が望む暮らしを形にしてもらえるからです。別の言い方をすれば、コストパフォーマンスの優れた家ができるからです。それから、どこが設計しても必ず経費は掛かりますし設計料はただではないはず。その結果、家族が望む暮らしを形にもらい実感できています。今では、暮らし初めから、まるで以前から住んでいたかのように違和感なく楽しく暮らしています。いつも自分たちの家だな〜と感じながら...

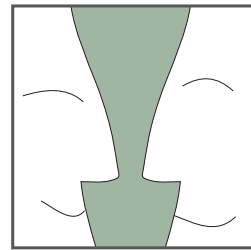
<今後、家を建てる方へのメッセージ>

どんな家にするかを考えることは、自分や家族がどんな暮らし方がしたいかを考えることだと思います。間取りから考え始める方が多いようですが形を考えるのはプロに任せましょう。大切なのは、家族が望む暮らし方や要望を言葉や文字で伝えること。我が家も最初に30項目ほど出しました。

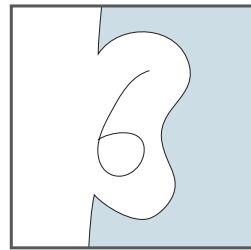


家づくりは、しっかりと話し合うことが大事です。

例えばこんな流れもあります。



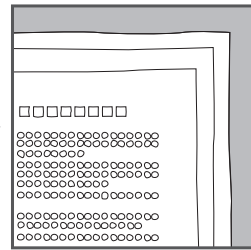
●顔合わせ
お客様と工務店の初顔合わせ。最初は緊張するものですが、お客様に家を建てようと思われた経緯（まだ頼もうではありません）住まいに対する考えや想いをお話いただきます。



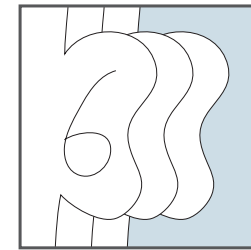
●ヒアリング1
より具体的な住まいづくりにまつわるさまざまな事柄を確認させていただきます。つまり、ご家族の事、趣味のこと、とか。又、ご予算についても、お聞きします。



●設計者決定
ヒアリングの内容を慎重に分析しながら、お客様と相性のいい設計者を選び、お引き合わせをします。いよいよ家づくりに向けた本格的な作業が始まります。



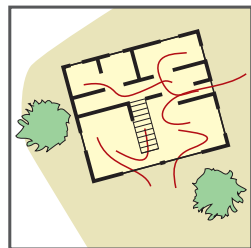
●契約
家を建てるご決心いただいたら、契約書を交わします。設計から施工までを一貫した設計施工契約がいいでしょう。少しでも不安や迷いをお持ちなら、なんなりとお訊ねください。信頼関係がすべてにおいて優先します。



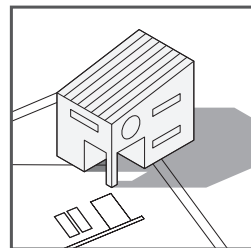
●ヒアリング2
ヒアリングは何度も行われ、設計者を含め工務店側がお客様のライフスタイルをきちんと把握できるまで続きます。このやり取りが一番大事なプロセスかもしれません。



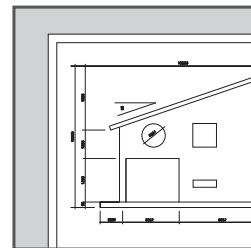
●基本プラン提出
何度かヒアリングをさせていただいてから、基本プランをご提案します。図面に加え、100分の1に縮尺された模型などで確認していきます。



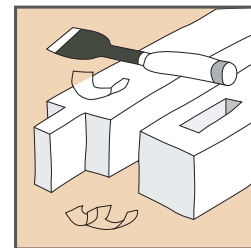
●再提出（必要があれば）
最初にかたちになった基本プランをじっくりご検討いただき、必要であれば修正点を改善して再度ご提案します。図面も模型も再度直します。基本プランは計画の骨格ですから慎重に取り組みましょう。



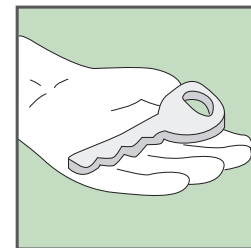
●実施設計開始
基本プランが決まれば実際に施工を進めるための、何枚もの図面が描かれます。これが実施設計といわれるものです。さらに、施工の際には施工図という細部の図面も必要となります。



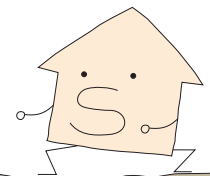
●工事開始
実施設計を進めながら、早くも資材調達など工事の準備が始まります。設計監理も設計者にお願ひし、デザインを最大限に尊重しながら工事を進めます。



●竣工・お引き渡し
いよいよ晴れの引き渡し。完成した住宅を見て、心躍るのは施主様だけではありません。工事関係者も感慨無量の瞬間です。世界にひとつだけの住宅で新しい暮らしが始まります。



既成の家を買うということは、最も大事なここまでの過程が省かれることがあります。





人がいて、暮しがあって、家がある。

時代を見つめた背振山

昔と変わらぬ丘

何度も再生され、昔と変わらぬ森

人々は住みやすい土地に集まる

昔と変わらぬ川の流れ